

『紅樓夢』における罵倒語の類型と意味

渡 辺 博 文

一 はじめに

本研究は一八世紀に書かれた小説『紅樓夢』(注1)を対象とし、その時代に使われた罵倒語が持つ語彙形態、意味特徴について分析する。まず罵倒語を類型し、それから意味説明を行い、最後に分類した罵倒語の特徴をまとめる。

郭(一九九九)によると中国でよく使われる「他妈的」という罵倒語は元来の意味が薄れていて、今日では主に物事に対しての口癖(しまった、クソ)として使われている。この事から見ると罵倒語はその時代の民俗文化における価値観、倫理観、生活習慣などと密接に関係し、その社会の時代的变化に従ってその意味や使われ方も変化しつづけていると言える。つまり罵倒語は、一種の民族文化語彙とも言えるのである。この研究の目的は『紅樓夢』における罵倒語を記述することによって、一八世紀の中国語とその時代の民俗文化との関係

を明らかにすることにある。

二 先行研における罵倒語の定義と分類

二― 先行研究

野崎（一九五七）は元代以前の文学作品では、若干の罵倒語が現れる程度に対して、元代には実に多く現れ、その多くは中国の伝統的社會意識をその発想的根拠にしていると述べている。そして元の雜劇研究の重要な資料である『元人雜劇百種』と『西廂記』に現れる罵倒語を、以下のように類型し、その類型については「このような冒詞の類型は、元代以前の庶民文学に散見される冒詞の類型を継続しており、また後世の庶民文学や魯迅以降の近代文学にあらわれる冒詞の伝統的類型を形成しているものと思われる」と結論づけている。

（一）性名誉を侵害するもの

- ① 人の血縁者の性名誉を侵害するもの（肉你妈妈歪辰、你娘、什么娘、弟子孩儿）
 - ② 生殖器をそのまま根詞とするもの（鸟、頼）
 - ③ 直接相手を性倫理の破壊者であると決め付けるもの（賊王八、老咬虫、弟子）
- （二）身分的秩序意識にもとづくもの（厮、贱人、贼）

- (三) 面子意識を表面におしだしたもの（没臉的、不要臉、丟臉）
- (四) 人を禽獸に擬する意識にもとづくもの（狗、驴、禽兽）
- (五) 罪業天罰意識にもとづくもの（业种、业贱、造业）
- (六) 鬼の意識にもとづくもの（没头鬼、鬼精、饿鬼）
- (七) その他（坏蛋、老村婆子、负心汉）

塚本（一九六六）は罵倒語について「罵詞あるいは詈詞は人間の行為、性格などに対して抱く忿懣、蔑視、憎悪の感情を言語表現したもの」と定義し、テキスト校合の作業過程でノートしておいた若干の詈詞を野崎（一九七五）の論文を参考に次のように分類した。

- (一) 相手の血縁者の性倫理を侵害・侮辱するもの（下流种子、野杂种）
- (二) 相手を直接性倫理の破壊者であるときめつけ、侮辱するもの（淫妇、贼淫妇）
- (三) 相手を禽獸に擬する意識にもとづく、侮辱するもの（猴儿、兔子、野马）
- (四) 相手を罪業天罰にもとづく侮辱するもの（造孽、罪孽、孽畜）
- (五) 面子意識を表面におしだして侮辱するもの（没臉的、什么脸、老脸面）
- (六) 鬼の意識にもとづく侮辱するもの（短命鬼儿、死鬼、淫魔色鬼）
- (七) 相手を物質に擬し侮辱するもの（什么东西、小东西子、老东西）

（野崎一九五七 一〇頁による引用）

(八) 对手を愚者視して侮辱するもの

(傻子、糊涂人、糊涂虫)

(塚本一九六七 二二〇頁による引用)

塚本(一九六六、一九六七)の論文は、彼自身が「本稿は初めから「詈詞」を考察する意図をもって、あつめたものではないため、性格別の分類と言っても、必ずしも正確とはいえない」と認めているように、代表的な罵倒語しか分類していないため、全数調査に基づく包括的なものとは言えない。

文孟君(一九九八)は罵倒語を「粗野或いは悪意のある言葉で、相手が恥辱を感じるようにする」と定義をし、以下のように類型している。

二―二 定義

本論文の罵倒語についての定義は野崎(一九五七)、塚本(一九六六)、文孟君(一九九八)と以下のものを参考にして定義する。

1. 性語 (1) 性器官(鳥、龟头、球、尻) (2) 性行为(日、入、禽) (3) 性乱(他妈的、养汉、淫妇、王八、爬灰) (4) 生理排泄(放屁、尿、放……屁)	2. 贬称语 (1) 动物(狗、猪、猪入的、王八) (2) 鬼神(鬼子、魔鬼、夜叉、狐狸精) (3) 什物(东西、老物、懒尸) (4) 卑贱奸邪(奴才、厮、丫头、孽障、业种、奸妇) (5) 亲属称谓(儿子、老子、大爷、孙子)
3. 直陈语(奸商、乡巴佬、秃头、秃歪刺)	4. 驱逐语(滚蛋、滚开、去你的、走开)
5. 威胁语(送你去见阎王、捏死你、砸烂你的狗头)	6. 诅咒语(买棺材、短命、下地狱、挨千刀、不得好死、断子绝孙)

(文孟君 1998 P.51 による引用)

まず『中国語大辞典』では「罵」について「①のしる、②（荒

い言葉で）侮辱する、③悪口を言う」と解釈している。《漢語大詞典》では「罵」について「①以惡言加人、②斥責」

（①悪口をもって人を責める、②叱責、叱る）と解釈している。つまり罵倒語は、汚い言葉或いは悪意を込めた言葉で相手を罵り又は侮辱して、相手が恥辱を感じるようにするものであると解釈することができる。

しかし罵倒語は、必ずしもすべて相手を侮辱するものとは限らない。一般的に罵倒語とされる語彙を用いて、相手に対する愛情、愛嬌、親密感を表すこともある（注2）。例えば、

①「賈母」罵道…「你这小蹄子、和他说了什么？」↓紫鵲（第五七回）

（「賈母」罵って言った…この小娘、彼に何と言った？）

②「賈璉口内笑道…「小蹄子、你这趁早拿出来」↓平儿（第二回）

（賈璉微笑みながら言った…小娘、早く出なさい）

文脈情報を含めて考えると、例文①は怒り、敵意、軽蔑などの感情を表しているが、例文②は愛情、愛嬌、親密感を表している。本論文で扱う罵倒語は例文②のように、愛情、愛嬌、親密感を表す時に用いられる汚い、粗野な語彙も罵倒語として扱うこととする。

三 罵倒語の類型

本論文での罵倒語の類型は野崎（一九五七）、塚本（一九九六）（一九六七）および文孟君（一九九八）を参

考にして行い、二段階にして類型する。

第一段階の分類方法は、語彙の意味的領域の大枠に応じて罵倒語を分類する。第二段階では、それらの罵倒語が持つ意味または含意に基づいて細区分する。そして細区分した項目に『紅樓夢』に現れた例語を挙げる。すべての例語については付録類型表を参照。

三―― 性語罵倒語

日常生活において性に関する語彙は常にタブーとされ、そのタブーを破って性器や性行為などの語彙をそのまま相手に向かって罵ることで、相手に非常に強い侮辱感を感じさせることができる。

三―― 性器罵倒語

性器官の名称または性器官関連の名称を持つて罵る罵倒語。例語…臊子、尻

三―― 性交罵倒語

性行為の語彙を持つて罵る罵倒語。例語…臊你娘的、你娘的

三―― 性倫理破壊者視する罵倒語

相手またはその親族が性倫理に反する行為をしたと決め付ける罵倒語。例語…娼妇、养汉老婆、小粉头、爬灰

三―二 貶義罵倒語

罵倒語を使う者はしばしば相手を「貶した、蔑んだ」言い方で罵ったり、故意に相手を「動物、鬼神、物品」に喩えたり、また相手の「長幼、身分」を貶称した言い方やその呼称をそのまま用いて罵ることがある。これらは、中国における伝統的な万物に対する順位付け、身分差別と厳格な長幼尊卑などの觀念によって作り出された罵倒語である。

三―二―一 人間視しない罵倒語

(一) 動物視する罵倒語

この種の罵倒語は伝統的な万物に対する順位付けの觀念から生み出されたもので、人を最も高い階級とし、蛮夷、禽兽、草木、土石と順位付けている。相手をその下の階級である動物に見下すということは、相手に大きな侮辱感を感じさせることができる。例語…畜牲、禽兽、猴头、王八羔子

(二) 鬼神妖怪視する罵倒語

中国の伝統的觀念では人が亡くなったあとと鬼になると考えられ、人を鬼にたとえて罵った場合は相手を「死ね」と罵るのと同じ意味である。万建中(二〇〇二)は《墨子・経上》の言葉「生、形与知处也」(生命は肉体と靈魂によって形成されたものである)を引用して「人が死んだ後はすべてがなくなったわけではなく、肉体と靈魂が離れただけであり、肉体が朽ちても、靈魂(鬼となつて)は存在し続ける。」と述べている。妖怪は人類の想像の産物で、中国ではその多くは邪悪なものとしてされている。例語…死鬼、老妖精、狐狸精

(三) 物品視する罵倒語

人は生命こそ人類文明の根源であると考え、生命を尊重し、生命のない物品を卑しい物であると考えている。罵りをする者はしばしば生命のある「人」を生命のない「物品」に喩えて、相手を侮辱し、罵る。例語…東西、老貨、劳什子

三―二―二 卑賤邪惡な者視する罵倒語

(一) 下級身分視する罵倒語

職種の違いや経済力の差が、人類に各種の職業や身分に対しての差別をもたらした。差別をもたらすような職業に携わる者や社会的地位が低い者はしばしば差別視され、その職種や身分の名称を罵倒語として使用するようになったのである。

漢代・楊雄（紀元前五三―西暦一八年）の『方言』には「僇、𡵓、𡵓、农夫之丑称也。南楚凡骂佣谓之田僇。」（注3）（僇、𡵓、は農夫の貶称である。南楚では召使いを罵る時は「田僇」と呼ぶ。）と記述しているように、中国では古代から、身分の低い者を差別視していたことがわかる。例語…该死的奴才、臭小厮、横强盗

(二) 血縁に対する罵倒語

中国では多くの宗族が繁栄の過程を通じて優越感が生まれ、そして血縁の正統性を最も重視するようになった。優秀な血縁を持つ者や宗族の子孫の地位を高くみなし、その逆の卑しい者や愚者無知な者に対しては強い輕蔑視を示した。

『方言』^々臧、甬、侮、获、奴婢贱称也。^々（臧、甬、侮、获、は僕の貶称である。）のところで^々臧、^々获を説明する例文にこのようなものがある。『漢書司馬遷伝』^々「且夫臧获婢妾犹能引决」、韦昭曰^々「羌人以婢为妻、生子曰获。奴以善人为妻、生子曰臧。」^{（注4）}つまり「羌の人は下女を妻にした時、生まれてきた子は^々获^々と呼ぶ。奴僕が平民を妻にした時、生まれてきた子は^々臧^々と呼ぶ。」両親の片方が卑しい身分であった時、その子も卑しい身分に属していたことを意味している。このことから中国での血縁に対する意識の高さが見て取れる。例語^々杂种、瞎禽的、下流囚攪的、娼妇蹄子

（三）人の発話に対する罵倒語

相手の言った言葉を貶すということは、その人の社会生活における信用性をなくし、相手を否定することにもなるのである。例語^々胡说、胡唸、混说

（四）愚者視する罵倒語

この種の罵倒語は相手の行為が愚か者や無知者の行為と同じであると、偏見の意を込めた罵倒語である。例語^々混帳、蠢物、糊涂、呆子

（五）後輩に対する罵倒語

目下の者に対して「元凶の子供」と決め付ける罵倒語、それとまだ成人していない児童に対しての偏見の意

を込めた罵倒語である。例語…孽根禍胎、无知的业障、下作黄子

(六) 外見置き換え罵倒語

この種の罵倒語は、相手がした行為などを相手の顔、或いは身体状況などに置き換えて偏見の意を込めた語彙で罵るものである。例語…没臉面的、没臉的、蹄子、黑炭头

(七) 人の性質に対する罵倒語

相手が行った行為を相手の能力や性格などに置き換えて、偏見した意を込めた語彙で罵る罵倒語である。例語…懶賊、下流、没良心、不长进

三―二―三 相手の属性に対する罵倒語

この「相手の属性に対する罵倒語」は「三―二―二(一) 下級身分視する罵倒語」と似ている点がある。しかしこの種の罵倒語は卑しい身分の者でないのに、いかにも卑しい身分の者であるかのように罵るのではなく、相手の身分などを貶称せずに罵る罵倒語である。つまり、相手が属している職業や身分の呼称をそのまま用いて罵る罵倒語である。

例えばある人に対して「奴才」(召使い)と罵ったとする。その人は召使いではなく、ただ行った行為が「隷根性丸出しの人」のようだ、というように相手の身分を貶称して罵った場合は「下級身分視する罵倒語」である。しかしその人が本当に召使いの場合、この「奴才」は相手の身分をそのまま罵倒語として表現した「相

手の属性に対する罵倒語」である。このように同じ語彙でも「下級身分視する罵倒語」になる可能性もあれば、「相手の属性に対する罵倒語」になる可能性もある。例語…禿歪刺、毛賊、奴才种子

三―二―四 生理排泄罵倒語

排泄物の名称を持つて罵る罵倒語である。上記の「三―二―二(三) 人の発話に対する罵倒語」と共通する部分があり、共に相手が話した言葉を貶している。例語…放屁、放你妈的屁

三―二―五 長幼呼称罵倒語

中国文化において上下の身分関係が極めて重要であり、自分を相手より上の世代に喩えるということは、相手よりも社会的地位が高いという意味になる。その逆の場合は相手を自分よりも、社会的地位の低いものとして貶している。例語…大爷、小子

三―三 呪詛罵倒語

中国では呪詛語の内容は豊富にあり、いろんな方面で使われている。強いて言えば、人々が望んでいない出来事や事物などを持つて相手を罵った場合、それは全部呪詛罵倒語になる可能性もある。人々が望んでいない出来事や事物を避ければ避けるほど、それらのものを表す言葉は呪詛罵倒語としての役割が高くなり、また罵りをする者の憎しみや恨みなどの強さを容易に表現することができる。

三―三―一 死を呪う罵倒語

人々は文化が成り立っていく中で死を避けるために、様々なタブーを設け、一種の安心感を求めた。タブーとすることで、それらの不吉な物事から逃れると考えていた。例えば、中国では「死」を「去世」「百年后」「走了」などに言い直される。居閑時、瞿明安(二〇〇二)によると、直接的な語彙を別の語彙に言い直すことを「模糊化」(あいまい化)として説明している。このあいまい化は相手に「死」というイメージを直接に与えず、会話の内容をまず頭で整理してから、その語彙が指している本当の意味が分かる。このことから以下の直接「死」というイメージを感じさせるような言葉は、人々にとって耐え難いものであったことが分かる。例語…该死、短命鬼儿、小挨刀的

三―三―二 子孫断絶を呪う罵倒語

当時の人々にとっては跡継ぎがないというのは、役立たず者で、能無しの人であると見なされていた。この観念から子孫繁栄に不利な語彙を避け、タブーとするようになったのである。例語…子死绝了、焦了尾巴梢子

三―四 駆逐罵倒語

駆逐罵倒語は相手を追い払う、追い出す意味を含んだ罵倒語である。相手が自分の前にいると怒りが込みあがって来るため、一刻も速く相手を自分の前から遠ざける時に使われる。例語…叉出去、快滚、快滚出去

四 罵倒語の意味分析

この章では中国の民俗文化や倫理観などの側面から、『紅樓夢』に出てきた罵倒語語彙の使われ方と意味について分析をしたいと思う。用例の選択基準は、その語彙の中で最も重要な部分について分析を行う。例えば『没見世面的小蹄子』（世間知らずの小娘）がある。『蹄子』の前の部分は『蹄子』を形容するものであり、この場合は最も重要と思われるのは『蹄子』であるため、これらの語彙をまとめて『蹄子』だけの意味分析を行う。また罵倒語の意味が字義的しかないもの、意味が単純なものについては、意味分析を省略する。

四—一 性語罵倒語

四—一— 性器罵倒語

『尿』は女性の性器である。しかし『紅樓夢』の中では男性に対して罵る用例がある。例語の『尿毛』はこの場合、相手（男性）の髪の毛を女性の陰毛に喩えて罵っている。また例語の『尿』は『尿毛』と同じような形で男性に対しても使われている。例えば、

③〔茗烟〕問道…『我们肉屁股不肉屁股、管你尿毛相干』↓金荣（第九回 頁一三七）

（俺たちがやるかやらないかは、てめえには関係ないだろ）

④〔鮑二の妻〕骂道…『叫不叫、与你尿相干』↓鮑二（第六十五回 頁九〇六）

(呼ぶか呼ばないかは、お前に関係があるのか?)

上例のように男性に対して、尻を使って罵っている。また陳克(一九九三)は男性性器の名称について、臊子、鸡巴、尻、臊根、脏头と尻を挙げてゐる。しかしどの辞書を見ても、尻を女性性器と解釈している。この事から尻は男性性器であるというのは無理があると思われる。『紅樓夢』の中では男性に対して三回尻が使われていて、以下のものがその例文である。

⑤〔柳氏〕笑道…別讨我把你头上的杓子盖似的几根尻毛持下来!。↓小厮(第六十一回 頁八三二)
(オマルの蓋みたいな形をしている髪の毛を抜き取ってやるよ!)

これは柳氏が使用人に対して使ったものである。この使用人の性格は小説の前後の内容から「物をねだる、子駄々子をする、嫌がらせをする」と男性が普段しないようなことをして、柳氏の機嫌を損ね罵られたものである。

⑥〔鮑二の妻〕骂道…叫不叫、与你尻相干…。↓鮑二(男性)(第六十五回 頁九〇六)
(呼ぶか呼ばないかは、お前に関係があるのか?)

これは鮑二が酒を飲んでいたところ、女中が来て酒を飲みたいと言い、これに対して、鮑二は「自分の妻の傍で仕えていないと、また文句を言われるぞ」と嫌味たらしく言った。これに対して彼の妻が尻を使って罵ったのである。

⑦〔趙姨娘〕指贾环道…你没有尻本事、我也替你羞。↓賈環(第六十回 頁八二〇)
(この根性なし、私も恥ずかしいよ)。

これは賈環が女性達に「虐められ、遊ばれ」たことに対して、趙姨娘が賈環に言ったものである。

以上のことから「戾」を男性に対して使用している時は、相手の男性が「女性に遊ばれる、虐められる、女々しいことを言う、駄々子をする、嫌味らしい事を言う」というように人々に認識されている男性としての言動、行為と正反対であることが分かる。男性に対して「戾」を使った例はこの三つしかないが、以上のことから男性らしくない言動、行為をした男性に対してこの「戾」が使われることが推測される。

四——二 性交罵倒語

「臊你娘的」「你娘的」などは「臊你娘的戾」を省略した形で、意味は「お前のお袋を犯してやるぞ」と脅迫する意味と、もう一つ「俺はお前のお袋を犯して、そしてお前が生まれたのだ」と相手を自分の息子であると罵り、侮辱する意味がある。「一 はじめに」で挙げた「他妈的」の元来の意味はこれと同じである。

四——三 性倫理破壊者視する罵倒語

劉達臨（二九九九）によると、古来中国での考えでは、婚姻での異性性行為が最も正当なものとされている。その婚姻の機能には、まず子孫を残すこと、次に家族を形成することがある。それ以外の性行為は全部道徳に反し、許されないものである。例えば、性的快楽、同性愛、避妊、離婚、配偶者以外との性行為などが挙げられる。また中国には、性道徳に対する戒めの言葉も多数存在している。例えば、「存天理、滅人欲」（天理を残し、人の欲をなくす）「万惡淫為首」（すべての罪は淫が最大である）などが挙げられる。その中「餓死事小、失節事大」（餓死は小さい事、節をなくすことが大きい事である）という言葉は、当時の貞節や貞操に対する考えをはっきり表している。このような考えは古くから中国に存在し、いまだに影響力を持っているのである。「娼婦、淫婦、

養漢老婆[〃]などがこれに値する。

「爬灰[〃]は「舅と嫁が姦通している」という意味である（注⁵）。『紅樓夢』の中の性倫理破壊者視する罵倒語の中で唯一この「爬灰[〃]だけが男性に対して罵ることができ、他の語彙はすべて女性に対してしか使えない。

四―二 貶義罵倒語

四―二―一 人間視しない罵倒語

（一）動物視する罵倒語

万建中（二〇〇一）の中でこのような例文がある。《礼・郊特牲》云…「男女有别…无别无义、禽兽之道也。」（男女に区別があり…区別、義がないということは、即ち禽獣である。）《礼記・曲礼》…「是故圣人作、为礼以教人、使人以有礼、知自别于禽兽。」（聖人の行いとは、礼をもて人を教え、人に礼をもたせ、自ら禽獣との違いを知るのである）これらの例文をみると、行い、義、礼などがないということは即ち禽獣の行為とされ、人間としての行為に反することが分かる。「畜生[〃]」「禽兽[〃]」などがこれに値する。

「猴[〃]」はよく「ずる賢い奴」という意味で使われる。華梅（二〇〇二）で「猴[〃]」を説明するところで挙げられた《本草綱目》の例文によれば、「形似胡人、故曰胡孙。」（形は胡人に似ている、故に胡孫と呼ぶ）とある。「胡人」は北方民族のことを指し、わけの分からぬ言葉をむやみに話したり、でたらめなことをしたりするというイメージがある。このことから、両者の間には共通する部分があると推測される。「胡人」については下記

四―二―二の「人の発話に対する罵倒語」を参照。

ㄱ忘八ㄱ ㄱ王八ㄱ は「亀、スッポン」という意味で、妻が外で浮気をしているのに気づかない大バカ野郎であると相手を罵っている。一説によれば唐代、官有の妓女を管理していた役人は頭に緑色の頭巾をしていた、亀の頭も緑のことから民間では彼らを「亀」と呼ぶようになった。その妓女のほとんどが彼らの妻でもあったことから、のちに自分の妻を売春させ、美人局をするような男の人のことを「王八」と呼ぶようになったとされている。もう一説では、古代人の考えでは、亀の雄と雌では交尾することができず、亀の雌は蛇と交尾して子を産むとされ、雄はそれ止めることができなかったのである。このことから他の男性と関係を持つ、女性の夫のことを亀と呼ぶようになったとも言われている^{〔注6〕}。またㄱ忘八ㄱ は「仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌」という八つの徳目を忘れた奴」という意味もある。

ㄱ癩蛤蟆想天鵝肉吃ㄱ は「自分の身分に不相応な願いを抱いている」という意味である。よく醜い男性が美しい女性に恋を抱いていることを貶すのに使われ、「身の程知らず」と罵っている。ㄱ兔子ㄱ は「ウサギ」という意味で、罵倒語の意味では「陰間」「男娼」などの意味で使われ、男色を売る人を指している。ウサギは鳥などと同じく八竅（目、鼻、耳、各二つ、口、一つの他に、陰部の穴を一つとする）ありとされ、鳥同様生殖口と排泄口が同一とみなされていた^{〔注7〕}。このことから女性の生殖口を持たない、男性に男色を売る男性のことを「鬼子」と呼ぶようになったと推測される。

(二) 鬼神妖怪視する罵倒語

古代では、人間の生命は「体」と「靈魂」によって形成されたものであると考えられ。人が亡くなった時、体と靈魂が離れ、体が朽ちても靈魂は「鬼」となって生き続けることができる」とされている。この靈魂という概念に対して次第に神秘的な力を意味づけするようになり、人々の前に現れる「生、老い、病、死」或いは「吉、災い」などに結びつき、人々に恐怖をもたらした。そして自分たちの行為が靈魂の怒りに触れないように制限し、行いに節操がない時に靈魂の報復や戒めを恐れていたのである。また「鬼」には「ずる賢い人」という意味もあり、「小鬼頭」がそうである。齊如山（一九九九）は「鬼」について「ずる賢い」という意味もあるが、よい意味ではない。」と説明している。

「狐狸精」は「狐のお化け」という意味で、中国では狐のお化けはよく美しい女性に化けて、男性をたぶらかすものとされている。男性を「たぶらかす女性」または「ふしだらな女性」に対して使われる。

(三) 物品視する罵倒語

「東西」または「老貨」の「貨」は「物品」という意味で、相手を「人間ではない」と見下している。「老貨」は「老」が付いていることから、これは主に年老いた人に対して使われる。「老いばれ」という意味である。齊如山（一九九九）は「東西」について「人を罵るときに用いる。：相手が物にも及ばないことを意味する。」と説明している。

「阿物儿」は「東西」と同じであり、「こいつ」という意味もある。主に人に対しての輕視の意を表す時に使われる。

齊如山（一九九九）は「阿物」について「阿物」の汚い言葉、即ち「東西」である。普段「什么东西」を言う時、よく「什么阿物」という。女性がよく使う。」と説明している。「劳什子」「劳什骨子」は物品、物事、生物（人間以外のもの）に対しての軽視、嫌悪感を示す時に使われる。

四―二―二 人間視しない罵倒語

卑賤邪悪な者視する罵倒語

（一）下級身分視する罵倒語

罵倒語の意味が字義的な意味しかないため、意味分析を省略する。

（二）血縁に対する罵倒語

血縁は氏族の「力」を集結する力があり、より優れた血縁を持つ氏族同士が結びつくことによって、その「力」はますます巨大になり頑丈なものとなっていく。このことから次第に中国では血縁という概念に敏感になり、重要視するようになった。このような意識の中で相手の血縁を貶すということは、相手に自分はこの世の無用なものであるというイメージをもたらすことができる。

「雑種」は「雑種」であり、相手を雑種であると罵っている。齊如山（一九九九）は「雑種」について「一、相手の系統がよくないという意味で相手の祖先を罵っている。二、相手を悪事の元凶であると罵っている。」と説明している。

「…肉の」「肉の」「攘的」「攘」は性行為を表す動詞であり、「この…によって犯されて生まれてきた奴」

という意味になる。これらの罵倒語は相手の血縁を純粋ではないと罵り、相手を侮辱すると同時に、相手の母親をも侮辱している。血縁を重んじる封建社会では、大きな侮辱を与える表現になる。〃小妇养的〃の〃小妇〃は「娼婦、売女」などの意味で、〃养的〃は「育てた」の意味であるから、つまり「娼婦が育てた子供」または「娼婦の子供」という意味になる。〃娼婦蹄子〃は〃小妇养的〃と同じ意味で、この二つは共に間接的に相手の母親がふしだらな女で、性倫理に反して他の男性と関係を持ち、そして相手はその性倫理に反した行為によって生まれた子供であると罵っている。

〃肉〃〃攘〃〃小妇养的〃〃娼婦蹄子〃は「性語罵倒語」に分類すべきである。しかし、これらの罵倒語は血縁を侮辱する意味合いが強いため、血縁に対する罵倒語に分類した。

(三) 人の発話に対する罵倒語

〃胡说〃〃胡咬〃は相手が言った言葉を「根拠がない」「道理がない」と罵っている。

上記の〃胡〃には「でたらめに、かってに、むやみに、いいかげんに」という意味がある。山口（一九九九）によれば、〃胡〃という字を使った語彙は宋以降に目立つようになり、元、明、清から現代に至るまで産まれ続けているとある。またこの〃胡〃という字は「古代、匈奴などの北方と西方の民族、または北方と西方、国外からきた物」を指していた。このことから山口（一九九九）では〃胡〃について、《五灯会元》を典拠とする〃胡言汉语〃という成語の一例を挙げて次のように説明している。〃胡〃字には「漢」に対する北方異民族の意味と「でたらめ」という意味が、ないまぜになっている。わけの分からぬ言葉をむやみに話したり、でたらめなこと

をしたりする北方の異民族、それが漢民族にとつての「胡」であった。北方から漢民族を脅かす「胡」が存在し続けてきた歴史的な現実が、漢民族のそうした「胡」に対する意識を生み出し、ひいては「胡のつく語」の増殖を支えてきたと述べている。「混説」も「胡説」と同じである。

(四) 愚者視する罵倒語

「糊塗」は相手が物事を知らない、或いは物事をかき乱すことをとがめる時に使われる。「間抜け」「愚か者」などの意味になる。山口（一九九九）によれば「胡が付く語彙のうち、胡という字を用いても、その「h u」という音を借りているだけで、その字義にはさほど関係しないものでありそうである。例えば「胡塗、胡塗蛋、胡塗虫」の「胡」は別の「糊」で書かれる場合もあり、胡の字義には関係ないとも考えられる。」と述べている。

(五) 後輩に対する罵倒語

「業障」の「業」（業）は、佛教では現世の行いを指している。民間では「業」は現世の良くない行いを指し、現世の悪い行いは来世にきつと報いがあるという意味である。「孽根禍胎」は「元凶の子供」という意味である。古代中国では「根」は、男性や女性の生殖器（「男根」「女根」）を指していた。また「根」には祖先、根源という意味がある（注8）。

「下作黄子」は相手の言動、行為などが「品位に欠ける」と罵るもので、「下作种子」と同じように使われる。《辞海》によれば「黄」は「幼児を指す。随代では三歳以下の幼児を黄、唐代では新生児を黄とする」と説明している。毛

丫頭は「小娘」という意味になる。毛には「小さい、物足りない、粗雑、大ざっぱ、いいかげん、そそっかしい」というような相手を蔑む意味がある。丫头は「少女」という意味である。

(六) 外見置き換え罵倒語

没臉面的、没脸的は「顔の皮が厚い」という意味で、つまり「恥じを知らない奴」と罵っている。魯迅はかつて《说「面子」》(『且介亭雜文』(魯迅全集第六卷))の中で面子について「それはまるで何種類もある様で、それぞれの身分には、それぞれの面子(面子)があり、いわゆる脸(顔)である。この脸には境界線があり、もしこの境界線の下まで落ちたら、即ち面子を失うことになる。つまり丢脸(面子が立たない)という。丢脸を恐れないということは、即ち不要脸(面子を要らない)ということである。もしこの境界線の上を越える事をしたならば、即ち有面子(面子が立つ)或いは露脸(面子が立つ)ということになるのである。」と述べている。

蹄子(ひづめ)という意味で、女性を罵る時はよく使われる。古代中国では女性の足を布で包む纏足の習慣があり、足の成長を抑え奇形化させていたのである。明人潘德符の《万歷野獲編》云…「明时浙东丐户、男不许读书、女不许裹足。」(明代浙東では、身分の低い者の男性は本を読んではならない、女性は纏足をしてはならない。)という一文を引用して、劉達臨(二九九九)は、中国では纏足は身分の高い女性がしていたと説明している。つまり纏足は、金持ちと良家の女性の特権だったことが分かる。

中国では、女性の足は小さいほど美しいとされ、これを「三寸金莲」と称していた。男性は細く尖った女性

の足を好み、大きく太った足を嫌っていたのである。このことから小さい足を崇拝すると同時に、大きい足に対して差別視するようになったのである。馮爾康・常建華（二〇〇二）は『望溪全集』卷十七『甲辰示道希兄弟』に出てくる方苞という人が言った言葉を紹介している。『形骸若鳥兽』（体形はまるで鳥獣のようだ）、これは彼が雨の中農作業をしている女性の天足^{注9}を見て嘆いた言葉である。昔の人は、女性の天足の足を醜いものと感じ、その醜さから禽獣の足のように見え、その禽獣の足を意味する言葉が『蹄子』である。天足には身分の低いまたは卑しい人という意味があり、またその醜さから『蹄子』と結びつき、いつしか女性を罵るようになったと推測される。

（七）人の性質に対する罵倒語

『浊物』は「汚いやつ」という意味になる。主人公の宝玉の考えでは、女性はきれいな水のように純粋なもので、男性は泥のような汚いものであると考えている。その純粋な水が一旦、泥と混じるとたちまち汚れてしまうと考え、どんな純粋な女性でも一旦男性と混じれば汚れてしまうという考え方である。この考えは宝玉だけではなく、おそらくその時代の男性のほとんどがこのような考えだったと思われる。

『贱骨头』は「げす」、また相手が卑劣または奴隷根性丸出しであるという意味で、主に女性に対して使われる。齊如山（一九九九）は『贱骨头』について「自分で自分を見下げる人をよく『贱骨头』という。」「『骨头』について「事をかき乱す人をよく『骨头』或いは『这块骨头』という。」と説明している。

四―二―三 相手の属性に対する罵倒語

罵倒語の意味が字義的な意味しかないため、意味分析を省略する。

四―二―四 生理排泄罵倒語

「放屁」は漢字の意味では「オナラ」である。相手の話がくだらなくて、まったく意味がないことをとがめるために、屁を排泄する行為に喩えて罵るのである。これは「嘘を言うな」「変なことを言うな」という意味になる。「屁」が付く言葉となれば、日本語からも「屁理屈」や「屁のような話し」などを挙げるができるだろう。

「汗癪」は熱病者のことである。「癪」は「封じ込める」という意味で、この病状は汗が出にくいことから「汗癪」というようになった。この病氣にかかった者は熱におかされて精神不安定になり、よく根も葉もないことを言うので、このことから「汗癪」はでたらめを言う人を罵るときに使うようになった。

四―二―五 長幼呼称罵倒語

劉達臨（一九九九）では周敦頤《通論》のある一文を紹介している。「礼、理也…乐、和也…阴阳理而后和。君君、臣臣、父父、子子、兄兄、弟弟、夫夫、妇妇。万物各得其理然后和、故礼先而乐后。」（礼、理なり…楽、和なり…すべてにおいて理が先で和が後である。君、臣、父、子、兄、弟、夫、妻。万物において先ず理が先であり、それから和がくるのである。故に礼が先であり楽が後である。）つまり下の者が上の者に対して、礼を尽くさなければならぬということである。

「大爷」は「おじさん」という意味で、年輩の男性を尊重した呼称である。この場合は自分で自分を「大爷」

と言つて、自分を上の世代に喩えて、相手を見下している。『小子』は「成人前の男の子」という意味で、この場合は相手を『小子』と言つて、自分の下の世代に喩えて、相手を見下している。

四―三 呪詛罵倒語

四―三―一 死を呪う罵倒語

万建中(二〇〇二)によれば、中国では正常死(寿命による死)と非正常死という概念がある。非正常死には『凶死』(殺される、自殺する、(災難にあつて)横死にする)、『夭折』(若死にする)、『无子女者死亡』(子孫を残さずに死する)などがある。

その中、中国では『凶死』に対して非常に恐れられ、避けるべきことであるとされている。また民間の概念では、『凶死』で亡くなった人の靈魂も悪とされ、その遺体は先祖と一緒に埋葬することができなかったのである。『凶死』の例としては、『上吊死』(首を吊つて死ぬ)、『刀砍死』(刀に切られて死ぬ)、『火烧死』(焼身死)、『溺水死』(溺水死)などがある。また、『凶死』で亡くなった人たちは後に「悪鬼」「悪霊」となり人々に害を及ぼす存在になると考えられ、人々に恐れられていたのである。このような死に方をする人たちは前世に罪を犯したから、これはそれ相應の罰であると考えられていた。

次は『夭折』である。中国各地ではこの『夭折』に対して様々な風習があり、古代の宁夏中央平原の葬式風習では、幼児が亡くなった場合は葬式すらせず、わらで包まって野原に捨てられていた。また山東地方では亡

なくなった人の墓の上に、桑の根と鉄の塊を置く習慣があり、そうすることによって亡くなった人の靈魂を墓の中に押さえつけることができ、生家にさまよい戻らないようにしていた。これもまた先祖と一緒に埋葬することができず、葬式や祭祀をすることもなかった。中国ではどんな死に方しても鬼となつてまた転生することができるとされているが、夭折で亡くなった場合は鬼にすらなることができず、転生することができないとされていたのである。

最後に「无子女者死亡」である。中国では子孫を残さない人は、無用な人であると考えられていた。生前では「不孝有三、无后为大」（不孝には三つあり、一番目は跡継ぎがないことである）と軽蔑され、死後も先祖と一緒に埋葬されずにいた。この種の死に方は下記の四—三—二と通ずるところがあると思われる。

以上のことを踏まえた上で以下の例語をみると、それらが意味することがはつきりすると思われる。「该死」「短命」「小挨刀的」「老砍头」などがこれらに値する。

上で述べたように中国では死者の靈魂は依然とこの世に存在し、人々の物事に干渉することができるものとされている。よつて死者の靈魂を恐れ、様々の方法でもて靈魂の怒りを避けようとした。下記の罵倒語は靈魂の怒りに触れるように、相手を呪っているものである（注10）。「挺床」「撞尸」などがこれに値する。

四—三—二 子孫断絶を呪う罵倒語

劉達臨（一九九九）によれば、中国では跡継ぎがいるかないかは、その家庭のりっぱさを現し、その重要性は夫婦関係の重要性をも超越している。跡継ぎがいるということは、家庭円満になるだけではく、年老いて自分が暮らす所があり、また自分の財産を残していけることもできる。その中、最も重要なことは先祖に対す

責任であるとされている。先祖を祭ったり、線香を立てたりすることができないということは、先祖に顔向けできないのである。『子死絶了』『焦了尾巴梢子』などが以上のもの値する。

四―四 駆逐罵倒語

罵倒語の意味が字義的な意味しかないため、意味分析を省略する。

五 まとめ

以上の類型と意味分析を進める作業において、罵倒語と民俗文化との関係について以下のようなものが浮かび上がってきた。また浮かび上がったものを付録類型表と対比する上で、罵る人物や罵られる人物の性別、身分との関係も浮かび上がってきた。

(一) 貞節の観点による罵倒語

中国には古来より男尊女卑という考えが存在し、様々な事物に現れ、男性と女性の私的な関係（婚姻、生育、性行為など）にまで及んでいる。古来より男性に「妾を持つこと」「再婚」「妻以外の女性と姦通」などが許され、女性にはそれらに値することが許されなかったかのである。これには、血縁や家庭を守るためであると考えられている。夫が亡くなってもこの貞節や貞操を守りぬけ、ある時は夫の死に殉ずることさえ自ら望みまたは強

要されていたのである（注Ⅱ）。このような考えの元で、相手の女性が貞節や貞操を守っていないという罵倒語が生まれたと推測される。

（二）性倫理の観点による罵倒語

性倫理の観点からなる罵倒語は上記の貞節の観点と通ずるものがあり、共にその大多数が女性に対して使われ、またその語彙も女性を意味しているのである。中国では古来より女性は男性の付属品であると考えられ、その女性が男性の付属品であるためには貞節や貞操を守ることが第一条件であった。当時では女性が節を失うということは、女性からみれば最大の恥であり、また両家の恥でもあったのである。

上記の（一）と（二）を類型表の一―二「性交罵倒語」と一―三「性倫理破壊者視する罵倒語」と照らし合わせることで、これらの観点による罵倒語は主に女性（罵る対象の女性親族）に対して使われていることがはっきりするのである。その内訳を見ると、人々に対しては一回、男性に対しては一回、女性に対しては三二回も使われている。また身分の高い人物や低い人物まで、さまざまな身分の女性に対しても使われている。このことからこれらの罵倒語は相手の身分に関係なく、女性に対して使うことができることが分かるだろう。

（三）行動意識による罵倒語

これは相手の愚かさや卑劣な行為、低俗な行為に対して嫌悪感を示すものである。また場面に相応しくない行為や発話を戒め、または拒絶を示すものでもある。中国には、古くから言動を戒めるような様々な言葉がある。

表1、動物視する罵倒語

性別	罵る人物	罵られる人物
男性	11 回	26 回
女性	24 回	8 回
両方		1 回

表2、人の発話に対する罵倒語

性別	罵る人物	罵られる人物
男性	9 回	15 回
女性	14 回	9 回
両方	1 回	

《論語・陽貨》「道听而途说、德之弃也」《論語・尧曰》「不知礼、无以立地。不知言、无以知人也。」《論語・問》「有道德者、必有言、有言者、不必有道德」《礼記・儒行》「言谈者、仁之文也」などがある。

この「行動意識による罵倒語」を類型表二―一(一)「動物視する罵倒語」と二―一(三)「人の発話に対する罵倒語」と照らし合わせることで、罵るものと罵られるものとの関係がはつきり浮かび上がってきた。

上記の表一、二を見ると、主に男性に対して使われていて、しかも使用者の半数以上が女性であることがわかる。また罵られた人物のほとんどが、身分の高い「宝玉」「賈政」「賈璉」に対してである。古来より男性は女性より常に社会的地位が高く、その行いも常に正しいものとされまた要求され、男性もそれを認識している。このことから能力や行いが常に男性の下である女性が、相手の愚かさや低俗な行為を表現する罵倒語を使用することで、男性に対して強い侮辱感を感じさせられることができる。

(四) 身分、血縁意識による罵倒語

古代中国では、職業は直接その人の階層や身分を表し、職業に対する「上下尊卑」の考えによって偏見や差別をもたらしたのである。馮永康・常建華(二〇〇二)にこのような一文を挙げている。《清史稿》「四民为良、奴仆及倡优为贱。」(四民を良とし、奴僕及び芸

者は卑しいとする。)「四民」は「士、農、工、商」を指し、それより下の身分である奴僕や芸者は卑しい者であるとされていたのである。故に「奴才」や「小厮」などの身分の低い者の呼称が、罵倒語として使われたのである。

この意識を反映したのは、類型表二―二(二)「下級身分視する罵倒語」と二―二(二)「血縁に対する罵倒語」である。これらの罵倒語をみると、使用者の性別、身分による差は見られなかったが、罵られる側にははっきりした違いが現れた。それは、罵られる人物のほとんどが男性であるということである。また「宝玉」「賈璉」「賈雨村」というような身分の高い人物も多く含まれている。社会的地位や身分の高い男性に対して、卑しい者を意味する罵倒語を使用することで、相手にとって最大限の侮辱感を感じさせ、その罵倒語の威力も最大限に発揮するのである。

このほかに二―二(五)「後輩に対する罵倒語」から、面白い結果が出た。ここで注目すべきことは、罵る人物と罵られる人物の性別の違いである。女性が二七回使用し(全使用回数は三一回)、男性は二三回罵られている。このことから、この種の罵倒語は女性が男の子供を叱る時の口吻であることが推測される。

(五) 面子意識による罵倒語

中国人にとって面子は行動をする上で、最も重要なものであると考えられている。この面子意識は中国人の考え方に影響を与え、言動を左右し、面子を考えてから行動するのである。佐藤(二〇〇二)によれば中国人は誰もが面子を持っている、しかしその面子の重みをどこに置くかは、性別、年齢、立場、地位、学歴、職業、

性格、思想、生活地域などによって違い、時間、場所、相手、状況によっても微妙に違いが生じてくる。これは正に魯迅の《说“面子”》の考えと一致している。様々な罵倒語の中で中国人にとって「不要臉」（面子いらず）ほど単純明快、しかも効力絶大な罵倒語は存在しないだろう。この一言で相手の自尊、自負などの感情を傷つけることができるのである。

ここで注意すべきことは、面子意識による罵倒語は「面子」という意味を含む罵倒語だけではない。例えば「胡说」「混帳」も言わば相手の面子を貶しているのである。つまり、すべての罵倒語がこの「面子意識」によるものであると言えよう。今後の課題としては、罵倒語の使用場面、使用者と対象の関係を分析することで「面子意識」について言及できよう。

（六）生死観による罵倒語

中国では死に対するタブーは最も強く、普段の生活の中では様々な言い方で言い直され、また人の死に方にも「いいもの」と「悪いもの」があると考えられている。死に対する恐れから、直接死をイメージさせる語彙でまた悪い死に方とされる言葉で相手を罵り、呪うのである。居閔時、瞿明安（二〇〇一）は、呪詛語を使う者はしばしば相手と比べて力が弱い者や社会的弱者が、最後の手段として呪詛語の魔力を借りて不足している実力を補っていると説明している。

このことから付録類型表三―「死を呪う罵倒語」の使用回数及び使用者の性別を見ると、男性六回（うち子供の宝玉四回）、女性一六回、人々一回となっている。このことから力の弱いまた社会的地位低い女性（人

が、よくこの呪詛語を使うことが分かる。また罵られる人物の性別には、男性が多いことも見て取れる。以上のことから力が弱い者や社会的弱者が呪詛という力を借りて、力や社会的地位の高い者に対して不足している実力の差を補っていると言えるだろう。

『紅樓夢』における罵倒語の種類と意味分析をする上で、以上のものが最も顕著に現れている。つまり以上のものが、当時中国の民族文化を反映したものであり、また最も重要視されていたものであると推測される。またそれぞれの民族文化を反映した罵倒語の背後にははつきりした、罵る人物や罵られる人物の性別、身分、世代の違いが存在していることも判明した。以上『紅樓夢』における罵倒語の種類と意味分析を進めてきたが、類型の方法や分析についてはさらに研究する必要があるだろう。また多くの資料や罵倒語の使用状況、または様々な研究の枠組みで持つて研究することが今後の課題となる。例えば誰が誰に対して、どのような場面で、どのような罵倒語を用いているかなどの側面から当時の時代状況に対しても説明ができよう。

源注

注1…本論文で使用するテキストは中国古典文学読本叢書『紅樓夢』人民文学出版社出版二〇〇一年一〇月とし、例文中のページ数はすべてこのテキストによる

注2…植田（二〇〇〇）は「罵り言葉は、例外あるとしても、ほとんどの場合、それだけを発言しても、罵り行為として受け取られると言える。……。しかし多くの場合、罵り言葉を発言すること、あるいは罵り言葉を含む発言を行うことは、罵りという発話行為を行っていると言える。」と述べている。

注3…〔清〕錢繹『方言箋疏』（中華書局出版一九九一年）一三二頁参照。

注4…〔清〕錢繹『方言箋疏』（中華書局出版一九九一年）一一〇頁参照。

注5…《漢語大詞典》「爬灰」六卷頁一一〇三、扒灰六卷三三八頁参照。

注6…寺山宏『和漢古典動物考』（八坂書房二〇〇二）一二八頁参照。

注7…寺山宏『和漢古典動物考』（八坂書房二〇〇二）四〇頁参照。

注8…劉達臨『性与中国文化』七七頁参照。

注9…馮永康・常建華（二〇〇二）の中では広東、広西、福建、貴州、雲南、四川などでは士大夫（官僚または知識人）の家族にだけ纏足の習慣があり、一般平民では天足（纏足していない足）であったと述べている。このことから分かるように纏足は身分の高い者と低い者に分け、尊いと卑しいとの違いでもあったことが分かる。

注10…万建中（二〇〇一）によれば、死者の遺物を触れてはいけない、生前の名前を呼んではいけないなどが挙げられる。なぜなら、死者の怒りに触れれば死者の霊魂は自分の霊魂を連れ去っていくと考えられていたからである。

注11…塚本『古列女伝』（有朋堂書店／一九二四）「張敏道が妻」（六〇一頁）の段では、趙氏（年二一）は夫が病で危篤の時、夫に誓って言った「あなたが亡くなったあと、私は昼夜にして泣き続き、最後は自ら命を終わらせるでしょう。」とある。「傳某の妻」（六〇七頁）の段では、岳氏（年一八）は夫が病気で息をひきとる時、彼女をそばに呼んで言いつけた「あなたはまだ若いから、いい人を選んで再婚してくれ。」これに対して彼女は泣きながら言った「どうして他人に嫁がせなおすことができませんよう。一人でいるより共に死んだほうがいい。」程なくして夫がなくなり、彼女は夫のそばで泣き崩れ、ついに自ら命を落としたのである。

参考文献

鲁迅 一九八二 鲁迅全集第六卷『且介亭雜文』 人民文学出版社

- 郭熙 一九九九 『中国社会言語学、三・冒語』 南京大学
- 塚本照平 一九六六 『紅樓夢における冒詞について』 『集刊東洋学』 一六号
- 塚本照平 一九六七 『紅樓夢における冒詞について(二)』 『中文研究』 七号
- 野崎駿平 一九五七 『元の雜劇にあらわれた「冒詞」について』 『中国語学』 五八号
- 文孟君 一九九八 『現代文化語彙丛书「冒語」』 新华出版社出版
- 出石誠彦 一九七三 『支那神話伝説の研究』 中央公論社(初版昭和十八年)
- 陈克 一九九三 『中国語言民俗』 天津人民出版社出版
- 李永宁 一九九七 『中国人の罵り言葉』 文教大学言語文化研究所紀要第九号
- 大河内康憲 一九九七 『中国語の諸相』 白帝社
- 宮田一郎 一九七三 『紅樓夢語彙索引』 采華書林
- 大島吉郎 一九九五 『紅樓夢』 語彙索引』 近代漢語研究会
- 寺山宏 二〇〇二 『和漢古典動物考』 八坂書房
- 陳紹棟 二〇〇三 『中国風俗通史・兩周卷』 上海文芸出版社
- 〔清〕錢 鐸 一九九一 『方言箋疏』 中華書局出版
- 居閱時・瞿明安 二〇〇一 『中国象征文化』 上海人民出版社
- 万建中 二〇〇一 『禁忌与中国文化』 人民出版社
- 劉 達臨 一九九九 『性与中国文化』 人民出版社
- 肖 群忠 二〇〇一 『孝与中国文化』 人民出版社
- 山口 建治 一九九九 『胡』のつくことは『胡説』『胡乱』 『人文研究』 一三五号
- 華 梅 二〇〇一 『服飾与中国文化』 人民出版社

齊如山 一九九九 『北京土話』 北京燕山出版社

馮尔康・常建華 二〇〇二 『清人社会生活』 瀋陽出版社

植田 康成 二〇〇〇 ドイツ語における罵り言葉について『広島大学文学部紀要』 六〇巻

塚本 哲三 一九二四 『古列女伝』 有朋堂書店

江 河海 (著)・佐藤 嘉江子 (訳) 二〇〇一 『中国人の面子』 はまの出版

漢語大詞典編輯委員会 一九九五 『漢語大詞典』 漢語大詞典出版社

大東文化大学中国語大辞典編纂室 一九九四 『中国語大辞典』 角川書店

馮 其庸・李 希凡 一九九〇 『紅樓夢大辞典』 文化藝術出版社

辞海編輯委員会編 一九八九 『辞海』 上海辞書出版社

私埤

付録

- * 罵る人物欄は“罵る人物〔性別×回数〕”を表し、罵られる人物欄は“罵られる人物〔性別×回数〕”を表す。♂は男性、♀は女性を表す。
- * 同一罵倒語に対して罵る人物が複数の場合、その順番は罵られる人物の順番と同順である。つまり罵る人物欄の第一人物が罵られる人物欄の第一人物に対して、罵倒語を使用している。
- * 複数に対して罵倒語を使用したとき、複数から罵られたときは {} を用いてまとめている。

類型表

1 性語罵倒語 —— 1-1 性器罵倒語					
例語	罵る人物	罵られる人物	例語	罵る人物	罵られる人物
私埤	茗 烟 [♂×1]	金 榮 [♂×1]	屎毛	柳 氏 [♂×1]	使用人 [♂×1]
臊子	鮑二の妻 [♀×1]	鮑 二 [♂×1]	屎声	柳 氏 [♀×1]	使用人の叔母 さ ん [♀×1]
屎	鮑二の妻 [♀×1]	鮑 二 [♂×1]	屎嘴	鴛 鴦 [♀×1]	鴛鴦の兄嫁 [♀×1]
1-2 性交罵倒語					
臊你娘的	隣倪二 [♂×1]	賈 芸 [♂×1]	你娘的屎	春燕の母 [♀×1]	春 燕 [♀×1]
你娘的	鳳 姐 [♀×1]	平 児 [♀×1]			
1-3 性倫理破壊者視する罵倒語					
娼妇	鴛 鴦 [♀×1] 麝 月 [♀×1] 趙姨娘 [♀×1]	鴛鴦の兄嫁 [♀×1] 晴 雯 [♀×1] 芳 官 [♀×1]	小娼妇	鴛児の母 [♀×1] 趙姨娘 [♀×1]	春 燕 [♀×1] 女 中 [♀×1]
忘了本的小娼妇	李婆さん [♀×1]	襲 人 [♀×1]	死促侠小娼妇	賈 璉 [♂×1]	平 児 [♀×1]
下作小娼妇	王婦人 [♀×1]	金 釧 [♀×1]	好娼妇	鳳 姐 [♀×1]	鮑二の妻 [♀×1]
老娼妇	趙姨娘 [♀×1]	宝玉の育ての 母 [♀×1]	老不死娼妇	王 氏 [♀×1]	自 分 [♀×1]
死娼妇	薛 蟠 [♂×1] 鳳 姐 [♀×1]	金 菱 [♀×1] 平 児 [♀×1]	淫妇	秋 桐 [♀×1] { 賈母 [♀×2] } { 鳳姐 [♀×2] } 平児 [♀×2] }	尤二姐 [♀×1] { 趙 姨 娘 [♀× 1] } 鮑 二 の 妻 [♀×1] } { 鮑 二 の 妻 [♀×4] }
好淫妇	鳳 姐 [♀×1]	鮑二の妻 [♀×1]	浪淫妇	趙姨娘 [♀×1]	女中たち [♀×1]
轻狂浪小妇	鴛児の母 [♀×1]	春 燕 [♀×1]	养汉老婆	鳳 姐 [♀×1]	李婆さん [♀×1]

养小叔子	焦 大 [♂×2]	鳳姐など[♀×2]	粉头之流	趙姨娘 [♀×1]	芳 官 [♀×1]
小粉头	夏婆さん [♀×2]	女 中 [♀×2]	爬灰	焦 大 [♂×2]	人々 [2]
2 貶義罵倒語——2-1 人間視しない罵倒語——(1) 動物視する罵倒語					
畜牲	焦 大 [♂×1]	賈 璉 [♂×1]	作業的畜生	賈 政 [♂×1]	宝 玉 [♂×1]
畜生	賈 政 [♂×3]	宝 玉 [♂×3]	尿崽子	芳官の育て の 母 [♀×1]	芳 官 [♀×1]
	鳳 姐 [♀×1]	賈 瑞 [♂×1]		趙姨娘 [♀×1]	女中たち [♀×1]
	平 兒 [♀×1]	秋 桐 [♀×1]			
毛崽子	趙姨娘 [♀×1]	女 中 [♀×1]	猴崽子	柳 氏 [♀×1]	使用人たち [♂×1]
小猴儿崽子	尤二姐 [♀×1]	賈 蓉 [♂×1]	忘八崽子	鳳 姐 [♀×2]	興 兒 [♂×1]
					女 中 [♀×1]
小崽子	璉婆さん [♀×1]	秦 鐘 [♂×1]	小忘八崽子	鳳 姐 [♀×1]	興 兒 [♂×1]
猴儿崽子	柳 氏 [♀×1]	使用人 [♂×1]	忘八	鳳 姐 [♀×2]	賈 璉 [♂×2]
	鳳 姐 [♀×1]	興 兒 [♂×1]		鮑二の妻 [♀×1]	鮑 二 [♂×1]
	尤二姐 [♀×1]	賈 蓉 [♂×1]			
糊涂忘八崽子	賈 璉 [♂×1]	人々 [1]	忘八脖子	鴛 鴦 [♀×1]	鴛 鴦の兄と 兄嫁 [男 ♀×1]
	鳳 姐 [♀×1]	興兒 [♂×1]			
没良心的王八 羔子	焦 大 [♂×1]	頼二など [♂×1]	王八羔子	焦 大 [♂×1]	頼二など [♂×1]
忘八羔子	賈 璉 [♂×1]	周瑞など [♀×1]	禽兽	鳳 姐 [♀×1]	賈 瑞 [♂×1]
狐狸	李婆さん [♀×1]	女中たち [♀×1]	猴头	賈 芸 [♂×1]	使用人たち [♂×1]
小猴	婆さん [♀×1]	使用人 [♂×1]	忘八蛋	鳳 姐 [♀×1]	興 兒 [♂×1]
癩蛤蟆想天鵝 肉吃	平 兒 [♀×1]	賈 瑞 [♂×1]	兔子	傻 舅 [♂×1]	変 童 [♂×1]
(2) 鬼神妖怪視する罵倒語					
阎王老婆	鮑二の妻 [♀×1]	鳳 姐 [♀×1]	死鬼	宝 蟾 [♀×1]	金 桂 [♀×1]
小鬼头	薛姨媽 [♀×1]	女 中 [♀×1]	妖精	王婦人 [♀×1]	女 中 [♀×1]
祸害妖精	婆さん [♀×1]	晴 雯 [♀×1]	老妖精	鳳 姐 [♀×1]	宝玉の育て の母 [♀×1]

狐狸精	王婦人[♀×1]	芳 官 [♀×1]	牛头	宝 玉、茗 烟 [♂×1]	王一貼[♂×1]
夜叉	尤二姐[♀×1]	鳳姐[♀×1]			
(3) 物品視する罵倒語					
东西	秦 鐘 [♂×1] 頼婆さん[♀×1] 探 春 [♀×1] 鳳 姐 [♀×1] 賈 環 [♂×1] 賈 璉 [♂×1] {王婦人[♀×1] 頼大[♂×1]}	能儿[♀×1] 頼婆さんの孫 [♂×1] 婆さん[♀×1] 平児[♀×1] 妙玉[♀×1] 賈芸[♂×1] {尼たち[♀×2]}	糊涂东西	宝 釵 [♀×1] 知 事 [♂×1] 宝 玉 [♂×1] 旺 児 [♂×1] 賈 珍 [♂×1] 林之孝の妻 [♀×1] 邢婦人[♀×1] 襲 人 [♀×1] {賈璉[♂×2]} {王婦人[♀×4]} {鳳姐[♀×3]}	秋 紋 [♀×1] 薛 蟠 [♂×1] 茗 烟 [♂×1] 張 華 [♂×1] 賈蓉など[♂×1] 女 中 [♀×1] 平 児 [♀×1] 賈 蘭 [♂×1] {賈芸[♂×1] 林之孝[♂×1]} {婆さん[♀×2] 賈 環 [♂×1] 女中[♀×1]} {女中たち[♀×1] 人々[1]} 平 児 [♀×1]}
下流东西	宝 玉 [♂×1] 湘 云 [♀×1] 賈母[♀×1]	女中たち[♀×1] 翠 縷 [♀×1] 賈璉[♂×1]			
什么东西	茗 烟 [♀×1] 鴛 鴦 [♀×1] 探 春 [♀×1] 婆さん[♀×1]	金 榮 [♂×1] 平 児 [♀×1] 王 家 [♀×1] 婆さんの孫娘 [♀×1]	混帳东西	平 児 [♀×1] 役所の門番 [♂×1] {王婦人[♀×2]} {賈璉[♂×2]}	賈 瑞 [♂×1] 役人[♂×1] {宝玉の育ての 母[♀×1] 人々[1]} {人々[1]偽の 玉を送ってきた 人[♂×1]}
不知死活的东西	賈璉[♂×1]	偽の玉を送 ってきた人 [♂×1]	野东西	賈 璉 [♂×1]	和 尚 [♂×1]
没王法的東西	鳳 姐 [♀×1]	焦 大 [♂×1]	没人心的東西	宝 玉 [♂×1]	孫紹祖[♂×1]
没趣兒的東西	宝 玉 [♂×1]	賈 芸 [♂×1]	不害臊的東西	司棋の母[♀×1]	司 棋 [♀×1]
小東西兒	王 仁 [♂×1]	巧 姐 [♀×1]	好蠢東西	宝 玉 [♂×1]	女 中 [♀×1]
混帳的東西	王婦人[♀×1]	賈 環 [♂×1]	打嘴的東西	賈 璉 [♂×1]	賈 芹 [♂×1]
没良心的東西	平 児 [♀×1] 隣倪二[♂×1]	賈 璉 [♂×1] 賈 芸 [♂×1]	老東西	鳳 姐 [♀×1] {賈母[♀×1] 王婦人[♀×3]}	趙姨娘[♀×1] {宝玉の育て の母[♀×4]}
没臉的東西	襲 人 [♀×1] 趙姨娘[♀×1]	使用人[♂×1] 賈 環 [♂×1]	混帳不堪的東西	宝 玉 [♂×1]	孫紹祖[♂×1]

好脏东西	湘 蓮 [♂×1]	薛 蟠 [♂×1]	不配抬举的东西	賈 璉 [♂×1]	賈 芸 [♂×1]
不得好死的下作东西	鳳 姐 [♀×1]	嫁たち [♀×1]	妖精似的東西	王 婦 人 [♀×1]	晴 雯 [♀×1]
不识抬举的东西	芳官の育ての母 [♀×1]	芳 官 [♀×1]	没臉の下流東西	秋 紋 [♀×1]	小 紅 [♀×1]
劳什骨子	薛 蟠 [♂×1]	玉 [物 (1)]	杌子盖	柳 氏 [♀×1]	使用人 [♂×1]
什么罕物	宝 玉 [♂×1]	玉 [物 (1)]	讨厌的老货	女中たち [♀×1]	李婆さん [♀×1]
阿物儿	李婆さん [♀×1] 婆さん [♀×1]	襲 人 [♀×1] 宝 玉 [♂×1]	不知好歹的东西	薛姨妈 [♀×1] 邢婦人 [♀×1]	賈 環 [♂×1] 賈 璉 [♂×1]
老货	賈 珍 [♂×1] 黛 玉 [♀×1] { 薛 姨 媽 [♀×2] }	烏進孝 [♂×1] 李婆さん [♀×1] { 李婆さん [♀×1] とある婆さん [♀×1] }	劳什子	宝 玉 [♂×1] 晴 雯 [♀×1] { 齡 官 [♀×2] }	玉 [物 (1)] 置き時計 [物 (1)] { スズメ [動物 (1)] 芝居 [1] }
2-2 卑賤邪惡な者視する罵倒語——(1) 下級身分視する罵倒語					
该死的奴才	賈 政 [♂×1]	宝 玉 [♂×1]	臭小廝	女中たち [♀×2]	宝 玉 [♂×2]
横強盜	婆さん [♀×1]	包 勇 [♂×1]			
(2) 血縁に対する罵倒語					
杂种	焦 大 [♂×1]	頼二など [♂×1]	杂种羔子	秋 桐 [♀×1]	尤二姐 [♀×1]
野杂种	賈 珍 [♂×1]	何 三 [♂×1]	饿不死的野杂种	平 兒 [♀×1]	賈雨村 [♂×1]
小杂种	隣倪二 [♂×1] 張王氏 [♀×1]	賈 芸 [♂×1] 薛 蟠 [♂×1]	糊涂狗攪的	人々 [1]	偽の玉を送ってきた人 [♂×1]
瞎肉的	秋 桐 [♀×1]	尤二姐 [♀×1]	小狗肉的	李 貴 [♂×1]	茗 烟 [♂×1]
反叛肉的	宝 玉 [♂×1]	焙 茗 [♂×1]	野牛肉的	鳳 姐 [♀×1]	男の子 [♂×1]
囚攪的	賈 菌 [♂×1] 薛 蟠 [♂×1]	金 榮 [♂×1] 宝 玉 [♂×1]	下流囚攪的	賈 赦 [♂×1]	賈 璉 [♂×1]
糊涂攪的	林之孝の妻 [♀×1]	女 中 [♀×1]	小妇养的	鋤 蕪、掃 紅、墨 雨 [♀×1]	金 榮 [♂×1]

娼婦蹄子	李婆さん[♀×1]	襲人[♀×1]			
(3) 人の発話に対する罵倒語					
胡说	代 儒 [♂×1]	宝 玉 [♂×1]	少胡说	鳳姐 [♀×1]	宝 玉 [♂×1]
	秋 紋 [♀×1]	晴 雯 [♀×1]	少来胡说	仙女 [♀×1]	宝 玉 [♂×1]
	刑婦人[♀×1]	迎 春 [♀×1]	该死的胡说	黛玉 [♀×1]	宝 玉 [♂×1]
	包 勇 [♂×1]	婆さんたち	休胡说	襲人[♀×1]	芳官[♀×1]
	元 帝 [♂×1]	[♀×1]	胡唸	趙姨娘[♀×1]	賈環[♂×1]
	薛家の人々[1]	土地の神[♂×1]	混唸	柳氏 [♀×1]	蓮花児 [♀×1]
	知 県 [♂×1]	宝 蟾 [♀×1]	多话	賈政[♂×1]	宝 玉 [♂×1]
	鳳 姐 [♀×1]	呉 良 [♂×1]	混说	王婦人[♀×1]	宝 玉 [♂×1]
	仙 女 [♀×1]	女 中 [♀×1]		賈 母 [♀×1]	賈 政 [♂×1]
	{ 賈珍[♂×2]}	宝 玉 [♂×1]			
	{ 王婦人[♀×2]}	{ 尤氏[♀×1]			
	{ 賈政[♂×2]}	賈 蓉 [♂×1]			
		{ 芳官の育て の 母 [♀×1]			
		宝 玉 [♂×1]}			
		{ 賈 璉[♂×1]			
		宝 玉 [♂×1]}			
(4) 愚者視する罵倒語					
混帳	宝 玉 [♂×1]	嫁たち[♀×1]	糊涂	平 兒 [♀×1]	賈 璉 [♂×1]
	北静王[♂×1]	趙旦那 [♂×1]		尤 氏 [♀×1]	入 画 [♀×1]
	賈 瑞 [♂×1]	道士 [♂×1]		二人の尼[♀×1]	老婆さんたち [♀×1]
	{ 王婦人[♀×2]}	{ 賈 環 [♂×1]			
	{ 襲人[♀×2]}	婆さん[♀×1]}			
	{ 包勇[♂×1]	{ 使用人たち [♂×1]	糊涂行子	賈 璉 [♂×1]	巧 姐 [♀×1]
	探 春 [♀×1]	薛蟠の 友達 [♂×1]}	混帳糊涂行子	金 桂 [♀×1]	薛 蟠 [♂×1]
		{ 女中たち[♀×1]			
		婆さん[♀×1]			
混帳老婆	鳳 姐 [♀×1]	見知らぬ女 性[1]	混帳行子	宝 玉 [♂×1]	孫紹祖[♂×1]
	賈 母 [♀×1]	趙姨娘[♀×1]		紫鵲[♀×1]	人々[1]
蠢物	仙 女 [♀×1]	宝 玉 [♂×1]	无知的蠢物	賈政[1]	宝 玉 [♂×1]
蠢材	宝 玉 [♂×2]	晴 雯 [♀×2]	呆子	惜 春 [♀×1]	婆さんたち [♀×1]

呆気	王婦人 [♀×1]	宝 玉 [♂×1]	痴儿	賈 政 [♂×1]	宝 玉 [♂×1]
(5) 後輩に対する罵倒語					
业障	平 児 [♀×4]	彩雲と玉釧 [♀×4]	无知的业障	賈政 [♂×1]	宝玉 [♂×1]
下作黄子	劉婆さん [♀×1]	板兒 [♂×1]	种子	王婦人 [♀×1]	賈環 [♂×1]
雷打の下流种子	邢婦人 [♀×1]	賈璉 [♂×1]	没造化的种子	趙姨娘 [♀×1]	賈 環 [♂×1]
下作种子	趙姨娘 [♀×1]	賈環 [♂×1]	没良心的种子	鳳 姐 [♀×1]	賈 蓉 [♂×1]
下流种子	{ 王婦人 [♀×2] { 賈母 [♀×2] 邢婦人、王婦 人 [♀×1]}	{ 賈環 [♂×1] 賈璉 [♂×1] { 賈璉 [♂×3]}	孽障	薛姨媽 [♀×1] { 賈母 [♀×1] 王婦人 [♀×1] 賈政 [♂×1]}	薛 蟠 [♂×1] { 宝玉 [♂×3]}
不肖の孽障	賈 政 [♂×1]	宝 玉 [♂×1]	作死的孽障	薛姨媽 [♀×1]	薛 蟠 [♂×1]
蛆心孽障	趙姨娘 [♀×1]	賈 環 [♂×1]	不争气的孽障	薛姨媽 [♀×1]	薛 蟠 [♂×1]
小孽障	鳳 姐 [♀×1]	鳳姐の娘 [♀×1]	孽根祸胎	王婦人 [♀×1]	宝 玉 [♂×1]
癩够扶不上墙 的种子	鳳 姐 [♀×1]	張 華 [♂×1]	毛丫頭	李婆さん [♀×2] 賈 環 [♂×1]	襲 人 [♀×2] 女 中 [♀×1]
孽障种子	鳳 姐 [♀×1]	賈 蓉 [♂×1]			
(6) 外見置き換え罵倒語					
没脸面的	探 春 [♀×1]	使用人たち [♂×1]	没臉的	賈璉 [♂×1]	賈芹 [♂×1]
黑炭头	婆さん [♀×1]	包 勇 [♂×1]	臭肉	女中たち [♀×1]	宝玉 [♂×1]
蹄子	鴛 鴦 [♀×1] 黛玉 [♀×1] 鴛 児 [♀×1] 晴 雯 [♀×1] 琥 珀 [♀×1] { 鳳姐 [♀×1] 賈母 [♀×1] { 平児 [♀×1] 王婦人 [♀×1]}	平 児 と 襲 人 [♀×1] 紫 鵲 [♀×1] 春 燕 [♀×1] 女中たち [♀×1] 鴛 鴦 [♀×1] { 平児 [♀×2] { 晴雯 [♀×2]}	小蹄子	襲 人 [♀×2] 尤 氏 [♀×1] 賈 璉 [♂×1] 紅 玉 [♀×1] 鳳 姐 [♀×1] 紫 鵲 [♀×1] 鴛 鴦 の 兄 嫁 [♀×1] 蟬 姐 [♀×1] 香 菱 [♀×1] 婆さん [♀×1] { 晴雯 [♀×2] { 金桂 [♀×1] 金桂の母 [♀×1] { 賈母 [♀×2]}	麝 月 [♀×2] 女中たち [♀×1] 平 児 [♀×1] 桂 蕙 [♀×1] 女 中 [♀×1] 五 児 [♀×1] 襲 人 [♀×1] 艾 官 [♀×1] 荳 官 [♀×1] 春 燕 [♀×1] { 墜児 [♀×1] 芳 官 [♀×1] { 宝蟾 [♀×2] { 紫鵲 [♀×1] 女中たち [♀×1]
没见过世面的小 蹄子	晴 雯 [♀×1]	秋 紋 [♀×1]			
嚼舌根的小蹄 子	平 児 [♀×1]	琥 珀 [♀×1]			

没足厌的小蹄子	尤氏 [♀×1]	鳳姐 [♀×1]	促狭小蹄子	春燕之母 [♀×1]	春燕 [♀×1]
烂了嘴的小蹄子	香菱 [♀×1]	荳官 [♀×1]	不成人的小蹄子	婆さん [♀×1]	婆さんの孫娘 [♀×1]
(7) 人の性質に対する罵倒語					
懶賊	襲人 [♀×1]	使用人 [♂×1]	浊物	都怨謗警幻 [♀×1]	宝玉 [♂×1]
僻性	探春 [♀×1]	惜春 [♀×1]	泼妇	尤三姐 [♀×1]	鳳姐 [♀×1]
没良心的混帳	鳳姐 [♀×1]	女中 [♀×1]	厩本事	趙姨娘 [♀×1]	賈環 [♂×1]
不长进	王婦人 [♀×1]	賈璉 [♂×1]	贱骨头	賈母 [♀×1]	尤二姐 [♀×1]
瞎了心的	晴雯 [♀×1]	女中 [♀×1]	不识抬举	薛蟠 [♂×1]	香菱 [♀×1]
不知好歹的	薛姨媽 [♀×1]	金桂 [♀×1]	没见世面的	金桂 [♀×1]	薛蟠 [♂×1]
下流	趙姨娘 [♀×2] 賈赦 [♂×1]	賈環 [♂×2] 賈璉 [♂×1]	没良心	芳官の育ての母 [♀×1]	芳官 [♀×1]
2-3 相手の属性に対する罵倒語					
秃歪刺	周瑞家 [♀×1]	智能の先生 [♀×1]	强徒	妙玉 [♀×1]	強盜 [♂×1]
毛賊	包勇 [♂×1]	盜賊 [♂×1]	撒野的奴才	鳳姐 [♀×1]	奴隸 [♂×1]
奴才种子	頼婆さん [♀×1]	頼婆さんの孫 [♂×1]			
2-4 生理排泄罵倒語					
放屁	賈政 [♂×1] 黛玉 [♀×1] 裁判官 [鬼(1)]	使用人たち [♂×1] 宝玉 [♂×1] 鬼たち [♂×1]	放你娘的屁	鳳姐 [♀×2] 婆さん [♀×1]	賈蓉 [♂×2] 焙茗 [♂×1]
放你妈的屁	鳳姐 [♀×1]	興兒 [♂×1]	放治屁	晴雯 [♀×1]	人々 [1]
汗癰	香菱 [♀×1]	荳官 [♀×1]			
2-5 長幼呼称罵倒語					
大爷	綢蓮 [♂×1]	薛蟠 [♂×1]	小子	尤二姐 [♀×1] 鳳姐 [♀×1]	賈蓉 [♂×1] 興兒 [♂×1]
3 呪詛罵倒語——3-1 死を呪う罵倒語					
作死的	黛玉 [♀×1]	鸚鵡 [動物(1)]	不死的	芳官 [♀×1]	趙姨娘 [♀×1]
狠心短命的	黛玉 [♀×1]	宝玉 [♂×1]	短命鬼儿	女中たち [♀×1]	賈蓉 [♂×1]
小短命鬼儿	李媽 [♀×1]	鳳姐の娘 [♀×1]	小挨刀的	尤氏 [♀×1]	人々 [1]
老砍头	賈珍 [♂×1]	烏進孝 [♂×1]	不得好死的	鴛鴦 [♀×1]	平兒、襲人 [♀×1]

该死	茗烟 [♀×1] {宝玉 [♂×3]}	王一貼 [♂×1] {焙茗 [♂×1] 医者 [♂×2]}	要死	李貴 [♂×1] 鴛鴦 [♀×2] 宝蟾 [♀×2]	茗烟 [♂×1] 使用人 [♂×2] 香菱 [♀×2]
无用的杀才	宝玉 [♂×1]	茗烟 [♂×1]	挺床	趙姨娘 [♀×2]	人々 [2]
撞尸	趙姨娘 [♀×2]	人々 [2]			
3-2 子孫断絶を呪う罵倒語					
子死绝了	邢婦人 [♀×1]	趙姨娘 [♀×1]	焦了尾巴梢子	人々 [1]	鳳姐 [♀×1]
4 驱逐罵倒語					
叉出去	賈政 [♂×1]	宝玉 [♂×1]	快滾	賈珍 [♂×1]	鮑二 [♂×1]
快滾出去	鳳姐 [♀×1]	女中 [♀×1]			